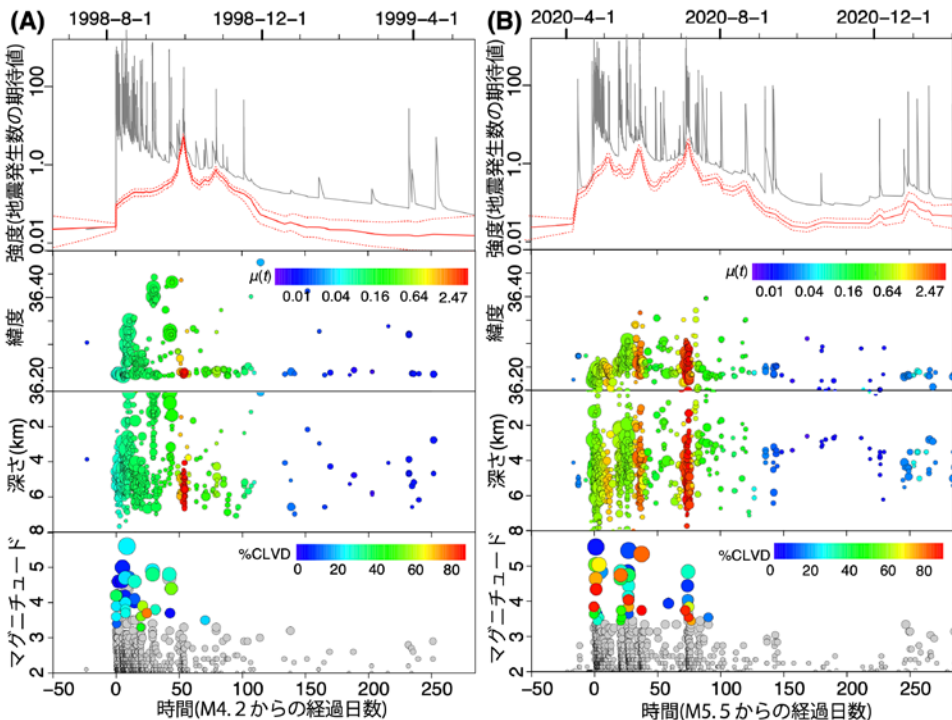
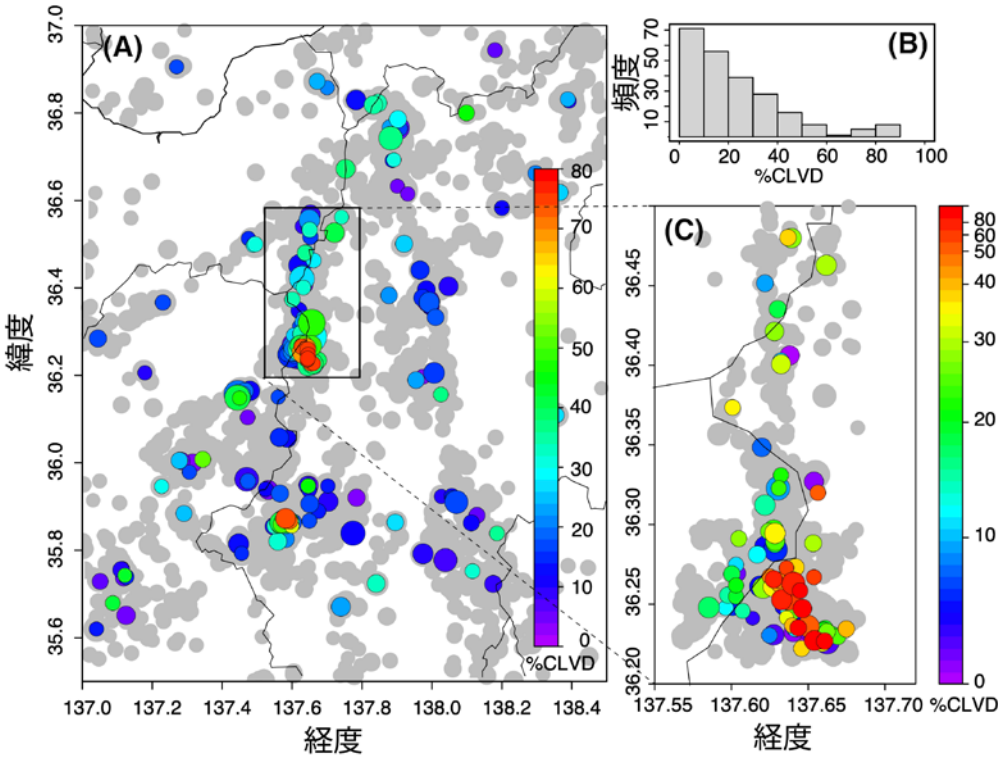


長野・岐阜・福井県境付近の群発地震活動について

熊澤貴雄(地震研究所)・尾形良彦(統計数理研究所)

① 北アルプスに連なる火山地帯の付近の群発地震なので、熱水やマグマ流体の移動や間隙圧の拡散に関連している指標として%CLVDを調べた。この群発地震域と御嶽山付近で高い値を示し、糸魚川静岡構造線やその他の主要な活断層地域では低い値が多い。%CLVDが高い値を示す地震は比較的深い場所で起こっている。

② 同様の観点から非定常ETASモデルの背景地震活動度を求めた。1998年では背景活動度が常時より数十倍～数百倍のピークに達しており、南端領域で深部に活動が集中している。2020年には同様なピークが3度あった。いずれもピークでは地震が小粒である。%CLVD値の高い地震は比較的小さいマグニチュードである。



非定常 ETASモデル

左側 1998年

右側 2020年

1段目の赤線:

背景活動度と誤差

2段目の色調:

緯度対時間上の

背景活動度

3段目の色調:

深さ対時間上の

背景活動度

4段目:

M-T図と

%CLVD